

CALL を利用した自律型学習への展望Ⅳ

英米学科 大森 裕實

高等言語教育研究所に「CALL/ICT 部門」が設立されて本年度は 4 年目に入ったが、本学の外国語教育に対して、**Computer Assisted Language Learning** (以下 CALL) と **Information Communication Technology** (以下 ICT) を活用した自律型学習がどの程度まで可能となるのか、また、そのための支援には何が必要なのかについて継続的に検討を加え、諸活動を行なった。特に、本年度から外国語学部において(文科省助成による)「グローバル人材育成推進事業」が本格実施されることが明らかとなり、設置が予定されている「iCoToBa(多言語学習センター)」と協調関係を保ちながらも、本学における今後の「CALL/ICT 部門」の方向性を考究する端緒となる 1 年になったと総括することができる。

1. CALL 教室の整備計画——本学学務課及び教育研究センターとの連携

本学が設置する旧来のアナログ方式 LL 教室 5 室について、CALL 機能を備えたデジタル方式多目的メディア教室に改修する計画は昨年度末をもって一応完結した。本学学務課に適宜アドバイスを行ない、共に検討を加え、本学の視聴覚教育施設の整備に貢献した。さらに、今年度は H205 教室の PC 全台にフリーダウンロードの音声分析ソフト Audacity をインストールし、自主制作音声教材の活用を可能にした。

- ① G202 教室(旧 LL30 人教室):PC29 台(Win.7)と簡易型 CALL“Wingnet”(コンピュータウイング社製)の整備(平成 23 年度末改修了)。
- ② G205 教室(旧 LL30 人教室):PC29 台(Win.7)と簡易型 CALL“Wingnet” [同上]
- ③ H205 教室(旧 LL50 人教室):PC50 台(Win.7)と PC@LL(内田洋行製 CALL)の整備(平成 18 年度改修及び平成 22 年度末再改修了)。 Audacity のインストール完了
- ④ H204 教室(旧 LL50 人教室):PC50 台(Win.7)と PC@LL(内田洋行製 CALL)の整備(平成 21 年度末改修了)。
- ⑤ G204 教室(旧 LL30 人教室):PC30 台(Win.VISTA)と簡易型 CALL“Wingnet”(コンピュータウイング社製)の整備(平成 20 年度末改修了)。 2013 年度に改修する必要あり

なお、当該 CALL 教室 5 室の管理・運営に関しては、学務課の杉浦秀一主事を中心にして、本部門との緊密な意見交換のもと、円滑に行なわれている。

2. ICT 活用のためのワークショップ——関連学会との連携と社会的貢献

大学英語教育学会(JACET)中部支部「2012 英語教育フォーラム」(2012.6.2)において、本報告者が企画立案した“英語で行なう Liberal Arts”と題するワークショップが実施され、本部門研究員の Edgar Pope 教授からの推薦で、吉田かよ子教授(北星学園大学短期大学部)が ICT 教育を専門教育において実践した Cultural Diversity in the U.S.: Regions, Ethnicity and Music—On Demand Lecture Series Offered Online to English Majors を報告発表した。これは過去 3 ヶ年(2009-2011)に Pope 教授、Watts 准教授、Cumming 講師(いずれも

本研究所員)が本報告者と共同で行なった ICT ワークショップ内容を継承するものであり、本部門のサポートを受けて実施した学界及び一般社会に対する社会的貢献の一環として位置づけられる。また、Eleanor Robinson 講師(本研究所員)及び児玉恵太氏(大学院国際文化研究科博士後期課程在籍)もそれぞれ報告発表を行ない、当該ワークショップに貢献した。

3. CALL 教室を利用した学生自主学習のススメ——語学試験対策としての H205 教室の運営

本年度も引き続き、「語学試験 (TOEFL / TOEIC / IELTS) 受験のための学生自主学習」を次のような要領で実施した。本事業を「資格検定に対する学生支援」と明確に位置づけて、日程調整をして実施したが、現実の参加者数に鑑みると、学内への本事業実施の浸透化を図る PR 活動にさらなる腐心が必要となろう。また、今後は「iCoToBa(多言語学習センター)」の運営方針とも均衡を量りながら、学生自主学習を支援する事業展開が求められる。

- (1) 場所: H205 (CALL) 教室。
- (2) 目的: CALL を利用して語学試験 (TOEFL / TOEIC / IELTS 等) 受験のために学生が自主的に学習することを支援する。
- (3) 日程: 2012 年 6 月 6, 13, 20, 27 日; 7 月 4, 11, 18 日 [前期] / 10 月 17, 24, 31 日; 11 月 7, 14, 21, 28 日; 12 月 5, 12, 19 日; 2013 年 1 月 9 日 [後期]
- (4) 実施時間帯 (13:00~16:00) の管理・運営・支援のため SA が常駐する。
- (5) 提供教材: 従来からの 3 種類の複数英語教材 (TOEFL / TOEIC / IELTS 対策) に加え、Website からの厳選情報も提供。

4. 本学学生のニーズに適合した視聴覚教材の開発——音声学実験実習室との連携

本学部が所管する「音声学実験実習室」では“スピーチ・クリニック”を開設して、外国語(特に英語)の発音の不得意な学生や Native Speaker の自然な発音に近づきたい学生を対象とする発音矯正を課程外教育として実施している——これは科研費基盤研究 C「コンピュータ利用の視覚認知型英語音声聴覚イメージの獲得に関する研究」と密接に関連する。

(1) 本年度新たに GlobalVoice CALL (HOYA 音声ソリューション事業部製) を導入・試行した——本ソフトの特徴は、従来型の開発メーカー既製の例文ではなく、自由なコンテンツを即応的に加工できる tailor-made programme にあり、音声波形、口形、口腔内図、発音評価(アクセント・イントネーション・タイミング)について、利用者が意識して自律的に学習できる点にある。

(2) Leah Gilner 准教授(文京学院大学)と共同で、Audacity を利用して、本学の学生の英語能力に適応した音声教材を制作した——Gilner 准教授の吹込みによる音声教材は、H205 (CALL) 教室においても自由利用が可能。

5. 今後の課題——開放型 CALL の構築に向けて

本報告者が客員教授を務める放送大学・愛知学習センターが実施した開設 20 周年記念講演「情報と教育」(岡部洋一学長[東京大学名誉教授] 2012.12.1)では、OER (Open Educational Resources [公開教材]) が拡張しつつある世界的潮流について報告がなされたが、ICT 教育及び異言語教育を考えるうえで極めて有益であった。このことは、旧来の教室環境で利用する閉鎖型 CALL から、学生が on demand で自由に活用できる開放型 CALL への移行——NBLT (Network-Based Language Teaching) の構築が急務であることを示唆している。